資料１

広報いわない５月号

岩内町地域公共交通活性化協議会からのお知らせ

問合せ　企画産業課　☎６７－７０９６

◎岩内町地域公共交通活性化協議会って何？

町民の方の生活や暮らしに便利な交通のあり方や交通網の整備による町の活性化に向け、岩内町地域公共交通活性化協議会（以下、協議会。）が平成26年２月に設立され、今まで５回開催されました。

高齢社会の進行に伴い、地域に最適な交通手段の確保や交通手段をもたないお年寄りの方等が外出しやすい交通体系を構築するなど、地域公共交通ネットワークの確保が課題となっています。

こうしたことを踏まえ協議会では、町の公共交通の現状を把握するため、アンケート調査等を行いました。皆さまのご協力ありがとうございました。

◎調査結果は？

アンケート調査の結果のほか、関係団体へのヒアリングやバスの乗降者数調査等の結果を「岩内町地域公共交通の検討調査業務報告書」にまとめました。

報告書の一部を左のページでご紹介します。

詳しくは、下記に設置してある報告書をご覧ください。

【報告書設置場所】

・役場庁舎（企画経済部企画産業課企画担当）

・文化センター図書室

また、岩内町ホームページ（http://www.town.iwanai.hokkaido.jp）でも閲覧が可能です。

◎今後は何をしていくの？

１．岩内町地域公共交通活性化協議会開催

昨年に引き続き、協議会を複数回開催します。

２．試験的に車両を走らせる実証運行の実施

小型バス（ワゴン車）を夏季・冬季のそれぞれ１か月間、実際に走らせます。

３．公共交通利用促進策の検討

公共交通をたくさんの方に利用してもらうための促進策を検討します。

４．岩内町地域公共交通網形成計画の素案作成

持続可能で地域にとって望ましい公共交通網をかたちにした計画書の素案を作成します。

報告書の一部を紹介します

❑住民アンケート

アンケート内容	アンケート結果		
	第１位	第２位	第３位
何歳まで自分で車を運転したいか	75歳～79歳（28%）	70歳～74歳（25%）	80～84歳（25%）
運転できなくなった時の町内の移動手段	ハイヤー・タクシー（40%）	バス（27%）	家族の送迎（17%）
路線バスの利用頻度	使わない（40%）	年数回程度（27%）	月１回程度（10%）
路線バスの利用目的	通院・治療等（41%）	買い物（18%）	趣味活動等（13%）
ハイヤー・タクシーの利用頻度	年数回程度（33%）	使わない（24%）	月２～３回程度（15%）
ハイヤー・タクシーの利用目的	飲食（34%）	通院・治療等（29%）	買い物（12%）

◈その他の意見として・・・

・バスの本数が少なく、乗りたい時間に運行していないことがある。
・買い物、通院などに便利な町内を巡回するバスがあればいい。
・倶知安のような町が運営するミニバスがあると人の循環の活性化が図れるのでは。
・停留所がもっとたくさんあるとバスも利用しやすい。

❑交通事業者･関係団体等ヒアリング調査

事業者・関係団体等	公共交通に対する考えなど
バス会社	雷電線は運行を維持するためにギリギリまで本数を減らしているが、雷電線沿線の交通手段は雷電線のみであるため、この路線はしっかりと守っていきたい。 行政としてはいろいろ問題があるかもしれないが、新たな路線としては町内に限らず商業施設など住民のニーズが高い施設を結ぶ路線も考えられる。
ハイヤー・タクシー会社	身近な交通手段として、かなりの近距離でも利用する方が多い。 小回りが利く移動手段としてハイヤー・タクシーは便利であると考えている。 大きなバスではなく、小さい車両で頻度を多くこまめに対応していくのが重要。
社会福祉協議会など	高齢者の外出目的は､買い物と通院が多い。 ジャンボタクシーや小型バスを利用した町内を循環するバスがあればいい。 タクシー助成があればいい。

❑路線バスの乗降者数等調査

路　　線	乗降者数	
小沢線（１日９往復）	倶知安行き（夏58人／冬78人）	岩内ターミナル行き（夏68人／冬86人）
神恵内線（１日12往復）	神恵内行き（夏108人／冬76人）	岩内ターミナル行き（夏94人／冬85人）
高速いわない号（１日16往復）	札幌行き（夏232人／冬237人）	岩内ターミナル行き（夏216人／冬182人）

※夏季･冬季の各１日の乗降者数。（夏季調査：平成26年10月２日（木）、冬季調査：平成27年１月22日（木））

上記の調査は、電源立地地域対策交付金を活用して実施しています。